

## ランチョンセミナー 2 [LS2]

日時：2026年4月9日(木) 12:20~13:20

会場：Room 2 201 + 202 (福岡国際会議場)



座長

大鹿 哲郎 先生  
(筑波大学)

## ご略歴

- 1985年 東京大学医学部 卒業
- 1985年 東京大学医学部 眼科学教室
- 1995年 東京大学医学部 講師
- 1997年 Louisiana State University, Visiting Assistant Professor
- 1998年 東京大学医学部 助教授
- 2002年 筑波大学 教授
- 2007年 日本眼内レンズ屈折手術学会 理事長
- 2017年 日本角膜炎学会 理事長
- 2017年 日本眼科学会 理事長
- 2020年 日本眼科AI学会 理事長
- 2025年 アジア太平洋眼科学会 (APAO) President
- 2026年 筑波大学 特任教授

白内障手術後の「もっと見えるはずだったのに」という患者さんの期待とのギャップを埋め、いかに「見える喜び」という満足へと昇華させるか。本セミナーでは、アクティブシニアの「夢見るまなざし」の実現をめざしたプレミアムIOL戦略について考えます。

前半では、enhanced monofocal IOLである Vivinex Impress に焦点を当てます。本レンズは「多焦点特有のハロー・グレアは避けたいが、中間距離の視機能を向上させたい」というニーズに応えつつ、軽度の併存疾患を有する症例にも適応可能な、“守りと攻めのバランス”に優れたIOLです。楠原仙太郎先生には、白内障硝子体同時手術というハードルの高い局面におけるIOL選択の要点を具体的に示していただくとともに、Vivinex Impressの特徴と既報、施設での適応基準および臨床成績について詳説いただきます。

後半では、+1.75D (中間) および +3.50D (近方) の加入度数を有する非球面3焦点IOL Vivinex Gemetricを取り上げます。Dr. Manchimaには、多焦点IOLに対する最新のニーズと選択基準を整理していただき、Vivinex Gemetricの使用成績と「なぜ今Gemetricなのか」をエビデンスとともにご講演いただきます。さらに、GemetricとGemetric Plusを組み合わせたpairing戦略の有用性についてもお話しいただきます。

患者さんの理想の視機能を支えるための、これからのレンズ戦略を共にアップデートしましょう。

講演  
1白内障硝子体同時手術におけるImpressの位置づけ  
～最適なIOL選択を目指して～楠原 仙太郎 先生  
(神戸大学)講演  
2Optimizing Patient Satisfaction  
with Gemetric Pairing: Evidence from ThailandManchima Makornwattana, M.D.  
(Thammasat Univ., Thailand)HOYA  
SURGICAL OPTICS